



 自主防災特集

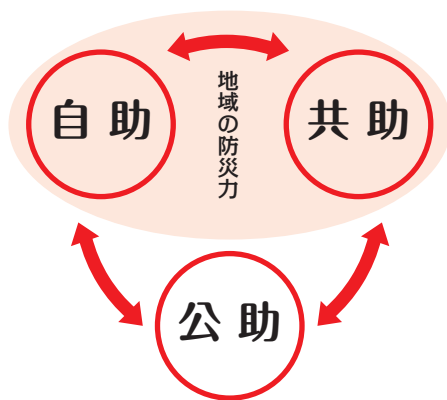
見つめ直そう地域の絆

市内の各地区では、昨年の3月11日に起こった東日本大震災以降、「自分たちの地域は自分で守る」ために「自主防災組織」の活動や訓練など、色々な取り組みが芽生えています。

私たちには今、震災の教訓を通じて「地域の絆(コミュニケーションづくり)の大切さ」が問いかけられているのではないのでしょうか。

防災には「自助」「共助」「公助」の3つの「助け」があります。

災害時には、この3つが互いに連携し一体となることで、被害を最小限に抑え、早期の復旧・復興につなげることができます。



自助 日ごろから家庭で話し合い、災害に備え準備すること。

共助 災害時要援護者（一人暮らしの高齢者や障がい者など）の避難の協力や、地域で消火活動を行うなど、周りの人たちと助け合うこと。

公助 行政や消防・防災機関による救助活動、支援物資の提供などの公的支援のこと。

大 規模な災害が発生した場合、「消防」「警察」「自衛隊」などの「**公助**」はすぐに駆けつけることが困難な場合があります。

「**公助**」による救助や救援が来るまでの数日間、家族や地域住民との助け合いの精神で、自分たちの命とまちを守れるだけの日ごろからの備えが大切だと言われています。

平常時の活動例

① 地域住民への防災意識の普及活動

防災対策は、まず一人ひとりが防災に関心を持ち、備えをしておきます。

② 防災巡視・防災点検

防災の基本は、自分の住むまちをよく知ることです。地域内の危険箇所や防災上の問題点を地域の皆さんで協議し、改善する必要がある場合は、対策の検討や、地区の防災マップを作成します。

③ 防災用品の整備

地域の実情に応じて、必要なものを準備しておき、日ごろから点検や使用方法の確認をしておきます。



④ 防災訓練

情報伝達訓練、消火訓練、避難訓練、救急救助訓練などを、地域の皆さんで取り組み、問題点を改善します。

⑤ 地域コミュニケーションの確保

地域コミュニケーションを充実させて、一人暮らしの高齢者や障がい者、乳幼児など災害時に支援が必要な方を把握します。



牛津町天満町の公民館には、^{たんか}担架やヘルメット・懐中電灯などが用意されています。

自主防災 組織の活動とは

自主防災組織の活動には、平常時と災害時の活動があります。平常時の活動成果が、万が一の災害発生時に生かされます。日ごろから、地域の皆さんで役割分担や地域内の災害時要援護者などの情報確認、防災訓練などを実施しておくことが大切です。

いざという時に備えて

《自主防災組織のススメ方》

自主防災組織は、住民の皆さんによる自主的な活動です。また、組織の規約や活動内容などは、地区の状況に応じて作成することになります。

地域住民が協議し、
組織の活動などを決定



規約、活動内容(地区の防災計画)などの作成
※詳細は総務課(☎63-8818)にご相談ください。



★メールで災害情報を入手！

「小城市防災メール」

小城市が提供する防災メールで防災情報(大雨警報・土砂災害警戒情報など)をいち早く携帯電話やパソコンにお届けします。このサービスを利用される場合は、利用者登録が必要です。

◆登録はいずれかの方法で

・ogi-shimin
@bousai.city-ogi.jp
に空メールを送る。

・QRコード
で読み取る。



取り組み事例

早めの防災で“減災”を

私は深町区に住んで17年になります。うちの地区は、新興住宅地のため、以前より4倍近い世帯数になりました。そんな地区だからこそ、いざという時に備えて、3年前から避難訓練を行うことにしたんです。去年の訓練は、樋口地区との境界の水路が浸水しやすいことから、樋口・五条地区へ呼びかけ、「祇園川が決壊して50cmほど浸水した」と想定し、避難場所をドゥイング三日月と決めて合同で行いました。当日は、3地区を合わせて300人の参加者があり、訓練には、行政や日赤、社会福祉協議会などからもアドバイスをもらいました。

その後のアンケートでは、「訓練の必要性を感じた」という声が多く寄せられました。また、訓練を通してお隣さんやご近所さんとのつながりもできたんじゃないかと思えます。

今後は、住民の皆さんの得意分野を事前に把握することで、災害がいつ来てもすぐ対応できるようにして“減災”につながればと思います。こうした行政に頼らない地域づくりが早期復旧につながり、深町地区の住民の幸せにつながると考えています。



左) 消防団と一緒に浸水に足を取られないように、ロープを握った避難訓練。

中) 消防署によるAEDや人工心肺蘇生法の実技指導と実践訓練。

右) 社協や地域防災リーダーと簡単にできる担架作りを実践。

三日月町深町自主防災会 会長 ^{まつ お よし みつ} 松尾 良満さん



「熱き消防団員たち」
市民と連携プレーで!!

小城市消防団長 ^{あき まる} 秋丸 政光さん

小城市消防団には、現在1100人の団員が在籍しています。

私たちは、消防署の指導を受けながら、いざという時にすぐに対応できるように動作を体に叩き込み、最近では、山林火災や水害に対応した訓練、災害時の誘導に力を入れた避難訓練にも取り組んでいます。

市民の皆さん一人ひとりがいざという時に備えて防災に関心を持ち、避難訓練など自主防災組織の活動に参加してもらいたいと思います。

「自助」「共助」のためには、知識や経験がなければ動きません。住民、地域、消防団が協力し合っていくことが大切です。



▲山林火災想定訓練を実施





左) 消防署と一緒に住民総出の消火活動。

中) 月1回の班長会。部屋の左奥には巨大な「天満町防災マップ」を掲示。

右) 公民館には万が一に備え、非常食などを常備。

牛津町天満町自主防災会 会長 もと むら ひろ た 本村 廣太さん



自分の身を守る“力”をつける

天満町区は、昭和24、28年を始め、過去7～8回大雨の被害にあっています。

そこで、『いざというとき、自分たちの命と財産は自分で守れる地域にしたい』と平成19年に自主防災組織を発足しました。

うちの地区では、始めに「天満町区防災マップ」作りに取り組みました。災害が想定される場所、交通の危険箇所などをみんなで意見を出し合い、現地を確認して作り上げた防災マップは、各世帯に配布しました。また、地区の公民館にも拡大したマップを貼っています。

その後は、毎年1回の防災学習会と避難訓練などを行っています。訓練では、平日の昼間に起こりうる消火活動には『女性の力も重要である』との考えから、女性や高齢者の方にも積極的に参加してもらっています。消防団以外の自分達がいかに対応できるか、それが「自主防災組織」だと思います。

防災で重要なのは、日ごろの備えです。天満町区では、毎月27日に班長会を行っています。班長さんにその班の様子や修繕箇所の要望などを持ち寄ってもらい、情報交換をすることで、情報の共有化とコミュニケーションの活性化につなげています。

「防災」と言ってもまずは、“決められたことを、決められたように行うこと”それが大事だと思いますね。

小城防災講演会

防災・減災

フォーラム2012

3・11あの時を忘れない

日時

3月20日(祝) 13時30分～(開場13時)

場所 ドウイング三日月

講演会の内容

・ 自主防災組織活動の実践紹介
(天満町区・深町区)

・ 基調講演

「命を守る防災」

・ 大津波から生き抜いた釜石市の子
どもたち、その防災教育に学ぶ



【講師】
かた だ としたか
片田 敏孝先生
群馬大学広域首都圏
防災研究センター長
群馬大学大学院工学
研究科教授

片田先生の講演では、釜石市で津

波防災教育に取り組んだ結果、約3

000人の小中学生のほとんどが、

押し寄せる大津波から逃れるなど、

東日本大震災の教訓から防災教育に

ついて学ぶことをお話いただけます。

入場料 無料

【問】牛 総務課 ☎63-8818

